

# 農地集団化のネライと方法

ここで、農地集団化とは一体どういうことなのか、具体的な事例についてふれていくことにしよう。

まず、農地集団化事業を大まかに分けると

- (イ) 農用地の交換分合
- (ロ) ほ場整備(区画整理)による換地の二つに分けられる。

農用地の交換分合は、田、畑、採草地等の区画はそのまゝにして所有権や耕作権を交換し農用地を集める方法である。

換地は、これまでの農地等のほ場整備事業を実施し区画を整理して、なるべく広い区画に切りなおし、従前の面積や、地力等を勘案してなるべく集団化するよう新たに所有権を設定する方法である。

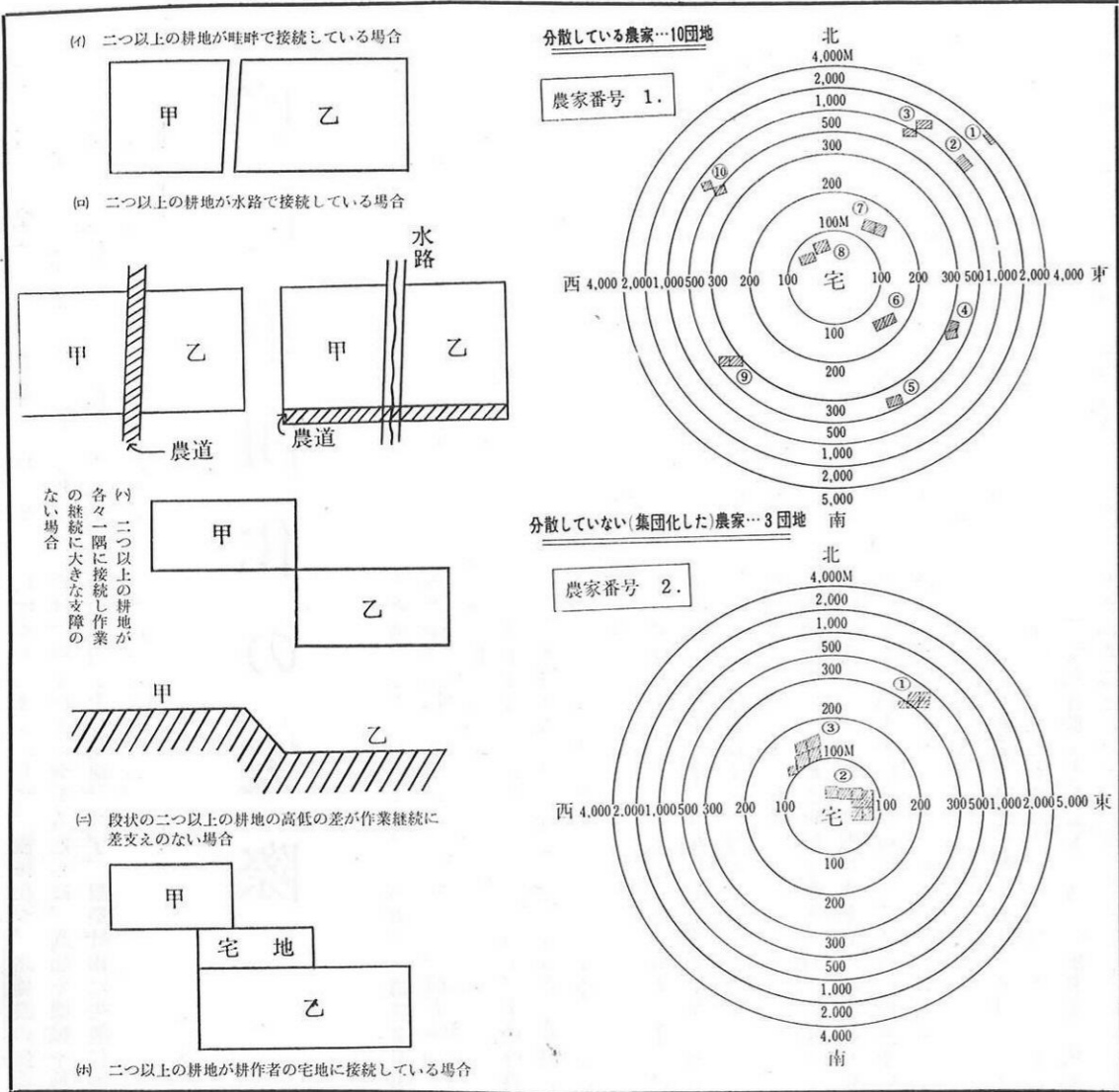
交換分合は農地の区画がそのままであるから工事の費用がかゝらず経済的だが、農地の面積や条件が、めいめい違うので交換がやりにくいという欠点がある。

(しかし、交換分合に附帯事業として、農道や、水路、排水路その他の工事をあわせおこなない、条件を整え交換がうまく行くように県費助成している。)

その点では、ほ場整備による換地に一区画で三反とか一町もある整然とした区画に整理して、その区画について新しい所有権を設けるのであるから徹底した集団化ができ、農道の整備とともにその効果は非常に大きい、山間の傾斜地では工

表1 農地分散状況と集団化の実績及び計画 (各県事務所総括)

各事務所別	昭和35年までの交換実績	農地分散状況(昭和35年センサス)			昭和36年—昭和38年間集団化実績			昭和39年度以降の交換面積
		1戸当り平均農地数	最団地大数	1戸当り平均面積	交換分合	換地計画	計	
熊野	3.780ha	9.7	33.7	10.1a	495ha	ha	495ha	5.800ha
宇城	7.026	9.4	38.4	8.2	885	32	917	5.800
玉名	2.948	7.8	19.9	7.5	643	224	867	9.200
鹿本	2.681	7.8	14.9	9.0	300		300	6.000
菊池	2.985	6.7	14.2	13.3	170	143	313	9.900
阿蘇	6.686	5.8	15.8	19.8	454		454	8.300
上益	4.725	9.8	28.3	12.2	1,010		1,010	7.600
八代	6.080	8.8	27.2	9.0	410	13	423	5.900
芦北	1.713	6.1	21.2	5.3	170		170	1.600
球磨	3.667	7.9	22.3	8.5	711		711	7.400
天草	4.058	6.8	22.5	5.2	1,040	8.9	1,129	7.300
計	46.349	7.6	38.4	9.3	6,288	501	6,789	74,800



## 生まれ変わった湿田

▲玉名市上小田V

九州でもトップを切って、構造改善事業による耕地整理、換地事業をやったのけた、玉名市上小田地区の場合、農地集団化のねらった効果をあますところなく発揮しているようだ。

上小田一帯は、質の悪い湿地帯で、しかも一筆平均九呎という猫のひたいほどの田んぼがひしめき合った、極めて条件の悪い農地であった。

人の田を何枚も横切らなくてはならないから、田植どきに遅れでもしようものなら、それこそ馬もかつきかねなくなる有様。

昭和三十七年、基盤整備事業によって完成した五十三畝の全耕地は、一区画一畝単位に、見事な基盤状に整理され、十字に走る六呎幅の幹線道路と、百呎おきに三呎幅農道六本と排水路が六本走っている。

小型の耕耘機も使えなかつたかつての田んぼで、一足飛びに共同の大型トラクターが、縦横に走りまわっている。いま、上小田地区では、県農業試験場の手で、土壌、施肥、適地作目、大型農業機械の効果測定、改善、そのほかあらゆる角度から新しい農業の姿を浮きほりしようとして試みている。また、玉名市構造改善室でも、農家所得をはじめ、農業経営改善のための解析を試みている。県下農業関係者の目が、一斉にそそがれているとも云えるのだ。基礎づくりは完了した。

湿田は美田に生まれ変わり、初年度の収穫は良いところで反当十俵、ますますである。労働力に十分余裕のできたことも立証済みだ。米プラス・アルファで所得の増大へ。

新しい農民像がここに生まれつつある。

事に多額の費用がかかるので主として平坦地を対照に考えられている。

集団化は数多い団地を少ない団地数に集めることであるが、ここで一応団地とはどういうことなのか説明することしよう。

団地とは、畜力および動力作業の段階における耕作の作業が中断されないで継続できる農用地の集まりであって、これを具体的に例示すれば次のようなことである。

これを一戸の農家の団地について考えて見ると上図のような分散図が考えられる。

自分や付近の農家について、このような分散図を作ってみると、意外に農地が分散していて作業の能率を悪くしていることに気付くとおもう。

### 個々の営農計画に

#### 目を向けて

農地集団化は散在する農地をたゞまとめることを目的とするのではない。戸々の農家はもとより、部落や村の農業を発展させるために、その障害となっている農地の分散をなくそうとするものである。集団化計画の前には個々の農家や村の農業計画に目を向け、農業の在り方によっては農地が一区画よりも二〜三団地の方が都合のよい場合がある。例えば営農類型が畜産、養蚕、稲作の場合には、飼料畑、桑畑、水田と三団地が必要でありこれ等はそれぞれに部落の集団地を形成することが必要である。